



「ペット産業の将来性」

一般社団法人ペット未病研究会
専務理事 林 一郎

本日の内容

- 1 ペット産業の市場構造
 - ▶1.8兆円のマーケット分析
- 2 ペットのヘルスケアのための飼主の支出
 - ▶60%以上を占めるヘルスケア支出
- 3 ペットの飼育継続のための飼主の支出
 - ▶飼育持続可能性への支出
- まとめ : 「たかがペット、されどペット」



1、ペット産業の市場構造

- 1.8兆円のマーケット分析

表1 ペット産業主要指標

調査項目	年度	種	数値	単位	増減	出典
市場規模	2017年度		1.5	兆円		矢野経済研究所
	2023年度		1.8	兆円	122%	
飼育頭数	2017年度	犬	768.2	万頭		ペットフード協会 ※1990年度 犬は1000万頭以上
		猫	867.2	万頭		
	2023年度	犬	684.4	万頭	89%	
		猫	906.9	万頭	105%	
平均寿命	1990年度	犬	8.6	歳		東京農工大
		猫	5.1	歳		
	2008年度	犬	13.2	歳		ペットフード協会
		猫	15.9	歳		
	2021年度	犬	14.2	歳	165%	
		猫	16.2	歳	318%	
動物病院数	2017年度		11,839	軒		農水省
	2023年度		12,706	軒	107%	
ペット保険加盟率	2022年度	国内	9.44	%		ペット&ファミリー損保
	2021年度	海外	30~40	%		株式会社富士経済

⇒市場規模:直近7年で20%拡大 ・ 飼育頭数:犬減少、猫増加 ・ ペット寿命:(犬)1.7倍・(猫)3, 2倍

表2 犬・猫年間支出額 出典（2023年版 アニコム白書より）

項目	犬				猫			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2019年	2020年	2021年	2022年
ケガや病気の治療費	44,869	60,430	59,387	67,367	23,919	31,848	34,395	31,138
フード・おやつ	52,497	64,745	65,924	66,066	49,713	42,925	52,797	49,103
サプリメント	8,737	11,861	15,370	11,020	2,783	5,668	4,428	3,100
しつけ・トレーニング料	7,273	7,204	7,489	7,930	2	1	21	0
シャンプー・カット・トリミング料	42,323	48,692	50,723	47,273	2,623	3,635	3,034	2,714
ペット保険料	50,155	46,895	46,187	45,445	30,155	34,929	29,900	27,385
ワクチン・健康診断等の予防費	27,653	32,463	32,695	34,154	12,814	14,029	13,785	13,504
ペットホテル・ペットシッター	8,339	3,991	5,001	4,455	3,469	1,609	1,065	1,092
日用品	20,601	13,750	14,364	14,202	12,118	13,766	13,633	13,429
洋服	13,156	11,640	13,096	12,853	753	674	495	629
ドッグランなど遊べる施設	4,157	2,880	2,650	3,466	6	0	0	25
首輪・リード	5,387	5,949	6,984	6,123	2,354	1,614	1,494	1,450
防災用品	1,082	703	761	1,561	1,431	982	884	1,050
交通費	5,457	14,908	12,929	16,714	1,357	891	531	486
光熱費（飼育に伴う追加分）	15,113	12,449	12,012	18,724	15,183	12,264	12,785	15,661
合計（円）	306,801	338,561	345,572	357,353	158,680	164,835	169,247	160,766
回答数（頭）	4,103	2,499	1,495	1,905	1,542	801	712	314
どうぶつの平均年齢（歳）	5.2	5.3	5.1	5.0	4.7	4.9	4.9	4.4

⇒犬猫年間支出：(犬)約36万円・(猫)：約16万円

表3 飼育支出分類 出典;(表2アニコム白書2022年度)

用途		内容	犬(年額:円)		猫(年額:円)		マーケット概算
			357,353	構成	160,766	構成	
							約1.8兆円
A	医療関連	医療費・健診・ワクチン等	101,521	28%	44,642	28%	約5000億円
B	生命維持関連	フード・おやつ・サプリ等	77,086	22%	52,203	32%	約4900億円
C	生活維持関連	日用品・首輪・光熱費等	39,049	11%	30,540	19%	約3000億円
D	保険関連	ペット保険	45,445	13%	27,385	17%	約1000億円
E	飼主満足関連	トリミング・防災・旅行等	94,252	26%	5,996	4%	約3400億円

市場規模1.8兆円の内訳:(前項表2より作成):i

⇒A:医療関係支出:約30%

合計約60%

⇒B:生命維持支出:約30%

⇒C:生活維持支出:約16%

⇒D:ペット保険支出:約5%

⇒E:飼主満足支出:約18%

1. ペット産業の市場構造：（考察）

- A, 医療関連：診療、健診：（治療・健診支出）
※支出は増加傾向：動物病院増加・自費診療（公的助成なし）
- B, 生命維持関連：フード代・サプリ代：（予防・改善支出）
※Aの支出削減のための予防支出
- C, 生活維持関連：空調、トイレ、介護等：（QOL改善支出）
※Aの支出削減・長寿化に寄与
- D, 保険関連：ペット保険：（診療費補填支出）
※Aの支出の備え・未加入で全額支出の飼主が圧倒的に多い
- E, 飼主満足関連：旅行・美容・外出等：（余暇支出）
※A～Dとは別目的な支出・人と同じ体験



2. ペットのヘルスケア のための飼主の支出

- 60%以上を占める
ヘルスケア支出の特徴

2. ペットのヘルスケアへの飼主の支出

表4 犬の受診件数・手術件数TOP点 出典（2023年版 アニコム白書より）

年間受診件数			
順位	疾患名	件数	診療費※
1	弁膜症	206,111	¥84,425
2	嘔吐/下痢/血便	204,823	¥9,350
3	その他の泌尿器疾患	141,565	¥12,821
4	原因不明の皮膚炎	135,501	¥2,290
5	アレルギー性皮膚炎	115,192	¥25,508
6	アトピー性皮膚炎	80,702	¥38,929
7	皮膚の痒み	61,026	¥12,210
8	歯周病/歯肉炎	57,089	¥43,340
9	細菌性外耳炎	54,271	¥10,120
10	歩行異常/跛行/四肢の痛み	51,504	¥8,030

年間手術件数			
順位	疾患名	件数	手術費※
1	歯周病/歯肉炎	15,655	¥59,672
2	その他の皮膚の腫瘍	4,268	¥77,330
3	消化管内遺物/誤飲	3,257	¥110,418
4	膝蓋骨（亜）脱臼	2,378	¥238,786
5	外傷（挫傷/擦過傷/打撲）	1,807	¥151,074
6	乳腺腫瘍/乳腺腫瘤	1,611	¥115,390
7	病理学未定の皮膚腫瘍	1,583	¥76,010
8	全身性の腫瘍	1,568	¥108,146
9	子宮蓄膿症	1,541	¥148,400
10	歯根膿瘍/根尖膿瘍	1,317	¥65,130

※中央値

表5 猫の罹患受診・手術件数TOP点 出典（2023年版 アニコム白書より）

年間受診件数			
順位	疾患名	件数	診療費※
1	その他の泌尿器疾患	69,824	¥41,918
2	慢性腎臓病/腎不全	61,897	¥82,306
3	嘔吐/下痢/血便	42,259	¥18,899
4	膀胱炎	27,815	¥23,095
5	胃炎/胃腸炎/腸炎	24,492	¥19,958
6	その他の皮膚疾患	16,930	¥12,138
7	結膜炎	15,210	¥9,075
8	心筋症	13,542	¥86,300
9	元気喪失（食欲不振等）	12,261	¥25,138
10	原因未定の皮膚炎	10,956	¥4,290

年間手術件数			
順位	疾患名	件数	手術費※
1	歯周病/歯肉炎	1,018	¥56,265
2	消化管内遺物/誤飲	845	¥125,163
3	その他の皮膚の腫瘍	275	¥73,480
4	膀胱結石	240	¥156,112
5	全身性の腫瘍	220	¥78,364
6	その他の全身性疾患	204	¥81,439
7	嘔吐/下痢/血便	144	¥102,548
8	その他の泌尿器疾患	139	¥322,498
9	外傷（挫傷/擦過傷/打撲）	134	¥55,385
10	尿路閉塞	1,317	¥196,620

※中央値

受診・手術傾向

犬

⇒受診：皮膚病・心臓病が多い

⇒手術：脱臼等が支出大

猫

⇒受診：腎臓・泌尿器が多い

⇒手術：泌尿器疾患等が支出大

共通

⇒手術件数では歯周病が多い

⇒腫瘍は多いが臓器の手術は少ない

⇒海外と比較し安楽死は少ない

2. ペットのヘルスケアへの飼主の支出：（考察）

・ A：医療関連（動物病院での支出）5000億円程度

・ 動物病院：直近5年でも7%程度増加 株式会社での運営

- ・ 疾患傾向：顕著な領域あり：手術内容は人と違う
- ・ 飼主負担：自費支出：公的な援助なし・ペット保険が人の健康保険の代替

・ 動物病院関連産業：薬・検査等

- ・ 薬：人の薬剤が70%程度使用、ペットの調剤薬局も必要
動物薬としての承認のうまみは少ない
- ・ 検査：物言えぬペット（カルテに問診がない）には検査結果は重要
新しい検査項目・診断・治療機器の開発は盛ん

※飼主側：支出は全て自己負担で非常に重たい 動物病院への支払い大

※企業側：人と比較し公的助成なくマーケットも小さく開発に見合う利益を得にくい構造

2. ペットのヘルスケアへの飼主の支出：（考察） 続

・ B：生命維持関連（動物病院推奨購入・自己判断でお店購入）4900億円程度

- ・ ペットフード：療法食（プレミアムフード）が拡大
- ・ サプリメント：栄養補助として拡大・人からペットへの技術転用が盛ん
- ・ 健康アプリ：AIの活用も盛んで様々な取り組みが加速 無料が多い

※飼主側：Bの支出の特徴は治療の増大を抑制するためのものでもある

※企業側：開発コスト・期間・規制等で人よりも参入障壁が低いが人と比べリターンも少ない

・ 飼主の支出マインド（効果に見合う支出がしたい ❶ エビデンスが重要）



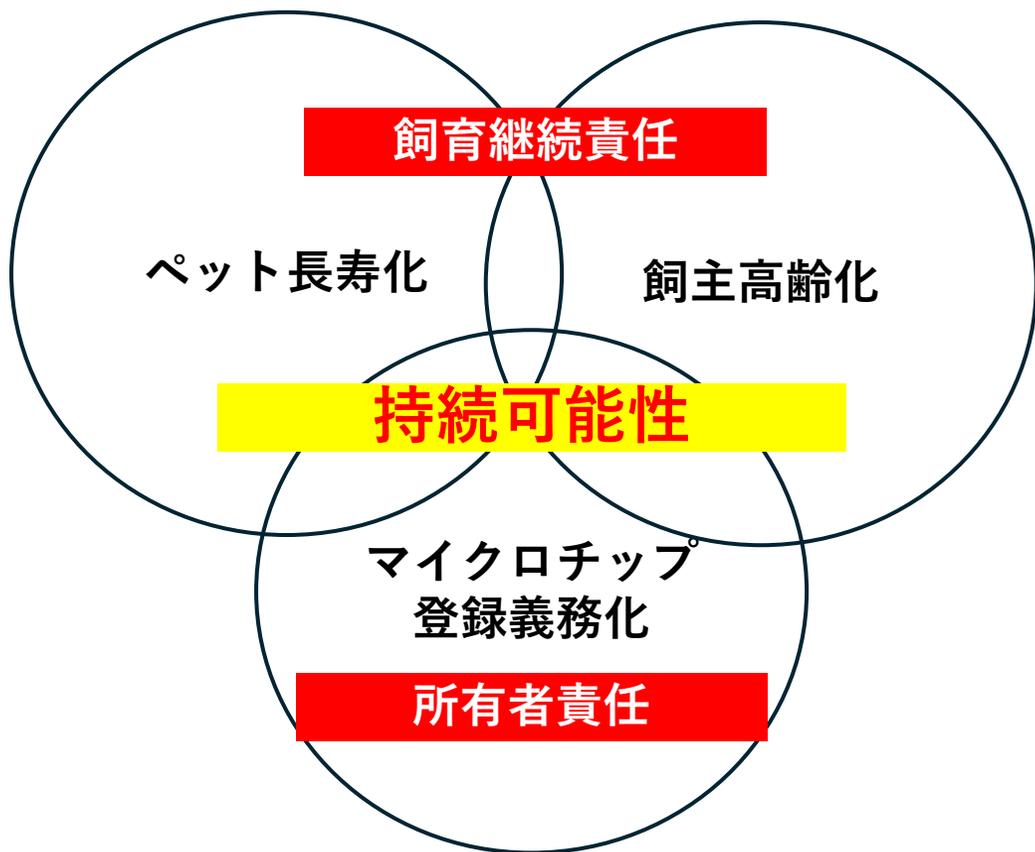


3,ペットの飼育継続 のための飼主の支出

- 飼育持続可能性への支出
の必要性

3. ペットの飼育継続のための飼主の支出：（考察） 1

ペットの飼育持続可能性問題がこれからの大きなテーマとなる



3つの命題

- ・ ペット長寿化
 - ▶ 医療技術発達・ヘルスケアの効用
- ・ 飼主高齢化
 - ▶ 健康予防・おひとり様ニーズ拡大
- ・ マイクロチップ登録義務化
 - ▶ 所有者の責任明確化

2つの責任

- ・ 所有者責任
- ・ 飼育継続責任

令和4年6月以降にペットショップが取得・販売する犬猫には、マイクロチップが装着されています。また、国のシステムでマイクロチップ固有の番号と直近で登録された所有者情報が紐づけされています。

(令和4年5月以前からペットショップが所有していた犬は除く)

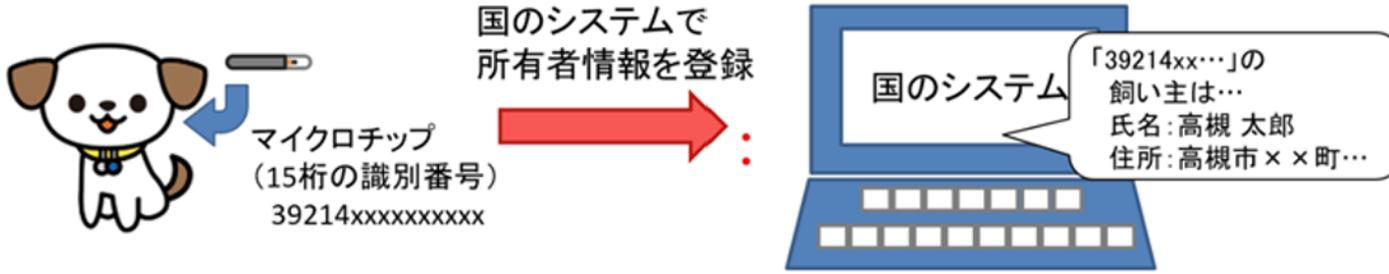


図1 犬と猫のマイクロチップ情報登録 出典 (高槻市)

図1: マイクロチップ情報管理について

⇒2022年6月改正動物愛護管理法施行

⇒飼主責任の明確化・装着率は増加

※飼育を拒否しても罰則規定はない。

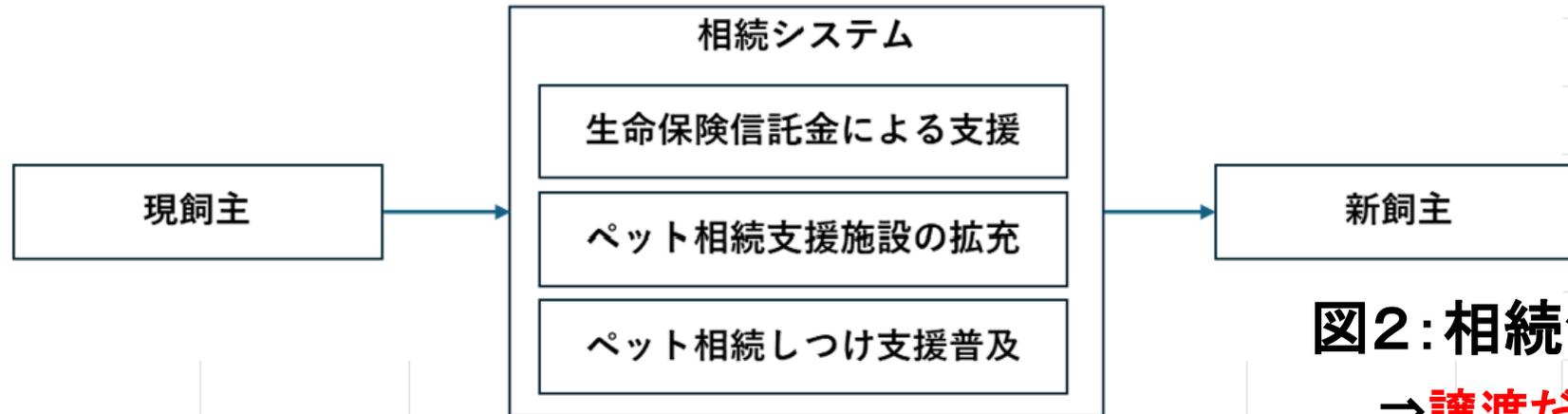


図2 相続システムについて

図2: 相続システムについて

⇒譲渡だけでは全てのペットを助けられない

※万一の仕組み作りが必要

3. ペットの飼育継続のための飼主の支出：（考察）

相続システムとは：ペットが自ら永続的に生きられるシェルター機能が必要ではないか



3. ペットの飼育継続のための飼主の支出：（考察） 続

マイクロチップの普及で：自家用車と同じような仕組みが必要ではないか

ペット

現飼主



飼育困難

所有者責任

相続システム

信託制度等

保護施設

飼育訓練

× ペット税

新飼主



マイクロチップ

共通項

所有価値

保管代行

所有可能

自家用車

現オーナー



車売却

安全義務
課税

取引システム

下取り制度

展示場

点検義務

○ 自動車税

新オーナー



車検証



まとめ

「たかがペット、されどペット」

まとめ：「たかがペット、されどペット」

「ペット産業の将来性」：新しいステージへ（ペットの命がより重くなる）

たかがペット

過去～ 最低限の飼主支出

経済成長で拡大

ペット飼育数拡大

されどペット

1990年頃～ ヘルスケアへの飼主支出
コンパニオンアニマル

ペットの健康長寿化

マーケットサイズ拡大

されどペット
(進化)

これから～ 飼育継続のための飼主支出
シェルター機能

持続可能性の追求

ペットとの共生拡大